

関係各位

常磐大学国際交流語学学習センター
センター長 渡部 茂己

第8回 TOKIWA 高校生英語プレゼンテーションコンテスト オンライン実施への変更について

標題コンテストについては、例年、本学学園祭にあわせ、参加高校生に本学見和キャンパスにお越しいただき開催し、本年度も、計画当初には例年同様の開催形式を想定してしておりました。

この度、「常磐大学および常磐短期大学における新型コロナウイルス感染症対策の基本方針（第7版）」（2020年8月7日付け）を受け、標題コンテストの実施方法を、下記の通りオンラインでの実施に変更することになりました。

ご理解、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

1. 日時： 2020年10月17日(土) 13:00～15:00（予定）
※参加人数によって前後する可能性があります。
2. オンライン実施とする趣旨：
 - 1) コロナ禍をきっかけとして、大学の授業に限らず、企業活動や社会活動においても様々なプログラムがオンラインで実施されるようになった。情報発信のオンライン化が世界中で益々加速する時代に生きる若い世代にとって、オンラインで、かつ英語でプレゼンテーションを行う機会は、貴重な経験となることが期待される。
 - 2) 本学の学園祭が、同日にオンライン実施の方向で準備が進められており、当事業も、学園祭のプログラムの1つに位置付け、本学の取り組みとして学内外に発信する。
3. 変更点
 - 1) 実施手段： オンライン(同時配信)での実施とする(Google MeetもしくはZoomを利用)。
 - 2) 審査・表彰： 参加生徒のオンライン環境が同一条件とならないことが想定されることから、審査及び表彰のいずれも実施しない。そのため、本学入試における優遇措置も今回は行わない。
 - 3) 参加証 参加生徒全員に参加証及び参加記念品を授与する。
 - 4) 催行人数： 催行人数上限は10名のままとして、応募者が3名以下となった場合には催行しない。
4. 事前準備：
 - 1) 発表者の自宅もしくは所属高校からの参加とする。実施日10日前～1週間前を目安に、オンラインの通信環境及び参加方法を個別に確認しながら20分程度のリハーサルを提供する。
<発表者に必要な環境>
*パソコン、タブレット等の端末機器(必須)
*インターネット(必須)
*Webカメラ及びWebマイク(必須)
*プロジェクターとスクリーン、あるいはインタラクティブボード等一体型のもの(任意)
 - 2) 発表者は、次の方法のいずれかを選択する。
 - ① 発表で用いるソフト(パワーポイント等)のパソコン画面を、プロジェクターでスクリーン等に投影しながら、スクリーン等の前でプレゼンテーションを行う自身の姿をWebカメラで映す方法。
 - ② プロジェクターやスクリーン等を用いず、発表で用いるソフト(パワーポイント等)のパソコン画面を見ながらプレゼンテーションを行う自身の姿のみを、Webカメラで映す方法。その場合、パワーポイント等のデータは、画面共有する。
 - 3) 審査員に代わり、各参加生徒の発表について質問、コメントをする次の4名が講評者として参加する。
<講評者> (学外) Charles Cedric 氏(茨城県国際交流員)
(学内) 平田亜紀准教授(常磐大学総合政策学部)
Kevin McManus 助教(常磐大学人間科学部)
板垣浩正助教(常磐大学総合政策学部)
5. 大会当日及び事後対応：
 - 1) 開始時間20分前から、コンテストのURLにアクセスを受け付ける。
 - 2) プレゼンテーション開始前に、発表者による簡単な自己紹介の時間を設ける。
 - 3) 1名の発表時間は、従来と同様、6分～8分とする。なお、発表後、審査員に代わり、講評者が英語で質問やコメントを行う。
 - 4) 発表者全員のプレゼンテーションが終了したあと、自由に感想や意見を交換し合う時間を15分程度設定する。
 - 5) 「Certificate of Participation」(参加証)を発行し、後日参加記念品とともに発表者へ郵送する。

以上